

◎向日市民憲章◎

- 1 住みよいまちを力を合わせてつくりましょう
- 1 きれいな緑と水と空を守りましょう
- 1 働くよこごびと心のふれあいを大切にしましょう
- 1 すぐれた教育と文化を育てましょう
- 1 明るいくらしと福祉のまちをきずきましょう



## 「はたちの夢と抱負」



斉藤貞子さん

あらゆる生物は、生きるために生まれ、そして、それらの持つあらゆる願望や欲望は、最終的には「生きたい」という欲求に帰着すると思ふ。しかし、その欲求と並行して、自分の生命の囲いを外すこと、即ち自我を捨てることは、誰もができることではない。己のことしか考えないという今の社会においては、特にそうである。人がどう生きようと、それはその人の自由であるが、今の世の中は、極端に言って「生きたい」という欲求だけでは生きてゆけないと思ふ。だからこそ、私は、生きることの難しさを感じる。そして、成人となった今、私は、何事も、存るがままに、成り行きに任せるというような行動はとりたくないと思っている。



迫田真人さん

「光陰矢のごとし」と言うが、月日のたつのは本当に早いもので、まだ学生気分のおまえが抜け切らないというのに、成人を迎えるのは、戸惑いと不安でいっぱいである。はたちになり大人の仲間入りで、それだけに今までのようなおまえは通用しない。だから、自らの目的を定め、その行いに責任を持たなければならぬ。今、はたちを原点として大きく飛躍するために様々な経験を積み重ね、より一層、心身ともに鍛え、自分の信念を貫き通し、何事に対してもくじけず、社会に対応できる一成人となりたい。大人へのスタートラインを今、一歩、独力で踏み出そう。



片山和宏さん

20歳になるまでの間、いろいろな事を学び、教わってきたけれど、それらを生かしたことはあまりなく、責任を持って行動したことは数えられるほどでした。世間に一人の成人として認められる20歳になって、甘い考え、安易な気持ちや行動は減らし、自分自身に責任を持たなければなりません。私は、20歳を一つの踏み台として成長させていかなければならないと思ふ。私自身、まだ成人としてわきまをえなければならぬことがいろいろあります。これから学んでいかなければならないことも多くあり、成人になって自分自身を振り返り、厳しい目で見て一歩一歩私自身を前進させていきたいと考えています。



早川明子さん

ある日、突然、20歳を宣告されて、法律的に成人としてみなされはするものの、精神はそれに伴わなく、ただとまどうばかりである。急に何も変わりはしないけれど、その響きの重みがなぜかずっしり心にのしかかる。子どもから大人へ、分別ができてくる反面、ずる賢くなっていく。政治、社会の事、難かしいことはわからないけれど、ほんの少しだけ、世の中の裏側が見えてくる。

「はたち」生きる事の難しさにぶつかり、横道にそれそうになる。だけど、つまづいても起きあがる強い人間になりたい。平凡な中にも何か「つや」のある自分なりの生き方をみつきたい。



築山喜直さん

「はたち」誰でも将来にある考えを持っているけれども、「本当にこれでいいのか」を考えねばならない時であると思う。

私としては、金儲けもしてみたいし、思いっきり遊んだりして、色々な私の夢を追っていききたい。その夢に近づくと、私の不断の努力と意欲が必要だろう。

夢の中のイメージと今の私とをよく見比べ、私の不足している物なり、気持や性格などを、真面目に私自身の問題として、「どうしたら、より早く、より易く理想に近づけるか」を考えて、私の求める物、将来の私を手に入れるように、私の進むべき道を誤らず、歩んでいきたいと思っています。



熱田陽子さん

昔は、元服という成人の儀式があり、これで成人と認められたそうです。今日では、とにかく満20歳で成人。しかし成人になるというのはただ単に年を取ったというだけではありませぬ。未成年の時は、父母の親権のもとで保護されましたが、成人となる、つまり親権から離れると社会に対し己自身で責任を持つたされるのです。社会に対し働きかけができると同時に、社会の中にひき出しおかれるのです。このことは、母親の胎内の子どもが、この世に一個体として生れることに似ていないでしょうか。生まれたからには、一生懸命生きるのが、生物としての使命のように、成人として社会の中で生きるのも使命ではないでしょうか。

◆一月十五日は成人の日。こと…◆  
◆し、市内の新成人は、五百七…◆  
◆十六人。この中から六名の方…◆  
◆々に、「はたち」の夢と抱負…◆  
◆を語っていただきました。…◆